

令和2年度 施政方針

うるま市はひとつ 市民協働のまちづくり

1 はじめに

本日、第136回うるま市議会定例会が開催されるにあたり、令和2年度予算案をはじめとする各議案の説明に先立ちまして、私の市政運営に対する所信と主要事業の概要を申し上げます。

昨年、皆様もご承知のとおり、天皇陛下の皇位継承により、令和元年5月1日に元号が改正されました。「令和」という新たな元号には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味が込められております。

令和という新しい時代を迎えるにあたり、市民の皆様と心を寄せ合い、市民協働のまちづくりに邁進すべく決意を新たにしております。

2 市政運営に関する基本姿勢

さて、私は、平成21年5月の市長就任以来「うるま市はひとつ・市民協働のまちづくり」をスローガンに掲げ、3つの基本政策を中心に様々な施策に取り組んでまいりました。

1 教育・子育て支援の拡大

教育・子育て支援の拡大については、待機児童解消のため、保育施設や小規模保育事業所の整備等に取り組み、子

ども子育て支援制度の改正があった平成27年4月から新たに2,077名の定員確保を行っており、待機児童数も前年度と比較して、236名から75名へと減少しております。

また、令和元年10月よりスタートした教育・保育の無償化に対応するため、令和2年4月より全ての市立幼稚園で3歳児からの受け入れが可能となります。

病気の回復期にある子どもを預かる「病後児保育事業」については、令和元年4月より認可保育所2箇所で開催しております。

また、「病児預かり事業」については、病院に隣接する事業所内保育所において令和2年度中の実施を予定しております。

現在、第2期子ども・子育て支援事業計画を策定しており、引き続き、待機児童解消に向けた施設整備に取り組みとともに、発達の支援を要する子ども達のため、複合的な専門施設についても検討してまいります。

保育士確保については、国や県の制度を活用した家賃補助事業や保育士試験対策講座の開催のほか、うるま市独自の補助事業も実施し、安定的な確保に努めてまいります。

学校施設整備については、子どもたちの安全・安心な教育環境を整えるため、老朽化した学校施設の改築等を積極的に行ってまいります。

AIチャットボット

実施期間 4月1日(水)～9月30日(水)

人工知能

うるま市では市民の皆さまの利便性向上のため、対話形式で人工知能が応答し自動で案内を行う「AIチャットボット」の実証実験を4月1日(水)から開始します。

チャットボット(Chatbot)は、テキストで入力された内容を通じて自動で会話するプログラムで、スマートフォンやパソコンからアクセスできます。

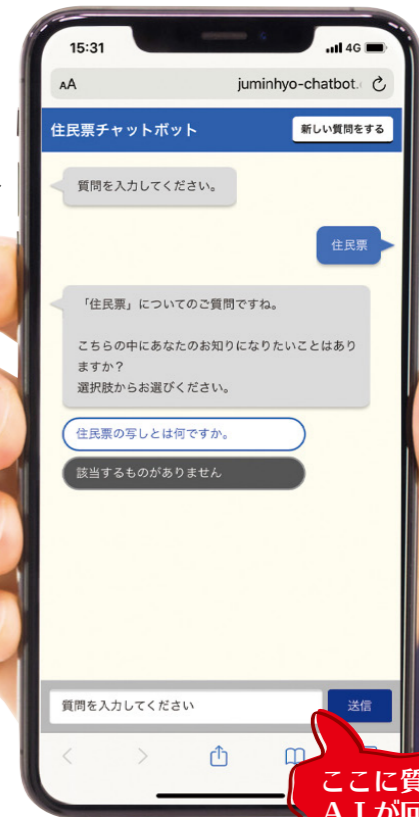
市民課窓口にて対応を行っている手続きの方法に関するよくある質問に、自動応答のチャットボットが24時間いつでもお答えします。

回答できる分野 市民課窓口関連業務

(注) 4月1日から段階的に対象範囲を追加していく予定です。

利用方法

右記のQRコードからアクセス！
うるま市公式ホームページからもご利用いただけます。



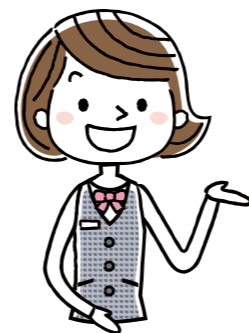
ここに質問を入力するとAIが回答するよ！

※画面は開発段階のものです。

お願い！

AIは、チャットでの質問内容のデータを蓄積し、より使いやすいサービスとなるよう学習を行っております。回答表示後に「解決した」「解決しなかった」の選択肢から回答にご協力お願いいたします。また、実証実験に関するアンケートも併せて実施していますので、回答にご協力お願いいたします。

お問い合わせ 市民課 ☎973-3206



4月1日から

市の組織が変わります。

新たな行政課題や多様化する市民のニーズに適切・確実・迅速に対応し、更なる市民サービスの向上と地域発展が出来るよう新たに見直しを行いました。

新設課

教育支援センター

教育研究所と青少年センターを統合し、教育支援センターを新設します。

統合することで窓口を一本化し、業務の集約と効率化を図ります。

部の移行

市民課

これまで総務部に所属していた市民課を市民部へ移行します。

※市民課の場所や業務についての変更はございません。